

福祉サービス第三者評価結果報告書【令和4年度】

2023年 3月 25日

〒 171-0022

所在地 東京都豊島区南池袋2-49-7池袋パークビル1F

評価機関名 パブリックサービスR&C合同会社

認証評価機関番号

機構 09 - 190

電話番号 03-4570-8659

代表者氏名 代表社員 臼井 淳



以下のとおり評価を行いましたので報告します。

評価者氏名・担当分野・評価者養成講習修了者番号	評価者氏名		担当分野	修了者番号
	①	青木 みな子	経営	H1401019
	②	狩野 節子	福祉	H1101048
	③	臼井 淳	経営・福祉	H0405013
	④			
	⑤			
	⑥			
福祉サービス種別	学童保育所(放課後児童クラブ)			
評価対象事業所名称	矢野口こどもクラブ			
事業所連絡先	〒	206-0812		
	所在地	東京都稲城市矢野口853 ハイブリッジ101		
	TEL	042-377-0201		
事業所代表者氏名	施設長 山尾 千春			
契約日	2022年 10月 1日			
利用者調査票配付日(実施日)	2022年 11月 25日			
利用者調査結果報告日	2023年 1月 26日			
自己評価の調査票配付日	2022年 11月 25日			
自己評価結果報告日	2023年 1月 26日			
訪問調査日	2023年 2月 2日			
評価合議日	2023年 3月 1日			
コメント (利用者調査・事業評価の工夫点、補助者・専門家等の活用、第三者性確保のための措置などを記入)	第三者評価実施にあたり、当機関における評価の進め方やスケジュールについて施設と事前打ち合わせを行い、施設長に対する自己評価方法の説明を行いました。利用者調査は、入所している全ての子どもの保護者を対象としたアンケート調査を実施しました。事前評価は、経営層及び職員個別の自己評価結果並びに利用者調査結果を分析した上で、評価者間で調査時の着眼点を共有し、訪問調査に臨みました。訪問調査では、施設長や関係職員に対するヒヤリングと書類の確認を行いました。訪問調査後、評価者間の合議により評価結果をまとめました。			

評価機関から上記及び別紙の評価結果を含む評価結果報告書を受け取りました。本報告書の内容について確認し、同意致しました。

2023年 3月 29日

事業者代表者氏名

〒461-0004 名古屋市東区葵三丁目15番31号

株式会社 日本保育サービス

代表取締役 坂井 徹



1	<p>理念・方針（関連 カテゴリー1 リーダーシップと意思決定）</p> <p>事業者が大切にしている考え（事業者の理念・ビジョン・使命など）のうち、特に重要なもの（上位5つ程度）を簡潔に記述 （関連 カテゴリー1 リーダーシップと意思決定）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 安心と安全を第一に考えた学童保育の運営 2) 子どもにとっていつまでも思い出に残る施設運営 3) 職員がやりがいをもって楽しく働ける環境づくり 4) 保護者や学校、地域との連携を大切に施設運営 5) 利用者のニーズに応えた質の高いサービスの提供
2	<p>期待する職員像（関連 カテゴリー5 職員と組織の能力向上）</p> <p>(1)職員に求めている人材像や役割</p> <ul style="list-style-type: none"> ・職員自身がやりがいを感じ、楽しみながら仕事をする中で、子どもたちの笑顔を引き出すこと。 ・職員が連携して、安定した施設運営を目指すこと。 ・誠実に業務に取り組むこと。 <p>(2)職員に期待すること(職員に持って欲しい使命感)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもたちが安心安全に、楽しく過ごせる場所を提供すること。また保護者が安心して預けられる場所にすること。 ・命を預かっている意識を強く持ち、責任を持って職務を全うすること。

調査対象

令和4年度11月現在、矢野口学童クラブに在籍している子ども(総数27名)の保護者全世帯(26世帯)を対象として実施しました。

調査方法

アンケート方式。評価機関から学童クラブに対し、本調査のお知らせの所内掲示と、個別のID・パスワード(保護者を特定しない形式)を記載した調査案内用紙の配付を依頼して実施しました。保護者には当評価機関専用のWebアンケートサイトから回答を入力してもらいました。

利用者総数	27
利用者家族総数(世帯)	26
共通評価項目による調査対象者数	26
共通評価項目による調査の有効回答者数	18
利用者家族総数に対する回答者割合(%)	69.2

利用者調査全体のコメント

総合的な満足度は、「大変満足」が72.2%(13名)、「満足」が27.8%(5名)と、回答した保護者の100%が満足しているという大変高い評価が得られています。設問別では、「はい」との肯定的な回答割合は、全20問中、16問が80%を超えており、最も高かったのは、「1.学童保育所の利用を開始する際、利用方法等についての十分な説明はありましたか」、「2.学童保育所での活動や遊びの際に守るべきルールや決まりについて、お子さんは納得していると感じますか」等の8問で、100%(18名)でした。最も低かったのは、「8.保護者が参加する行事の日程は、保護者が参加しやすいように配慮がされていると感じますか」と「14.台風・地震・火災等の災害や不審者等に関する情報や対応についての連絡は入りますか」の61.1%(11名)でした。総合的な意見では、「何ごとにも丁寧な対応にいつも感謝しています」、「手作りおやつや作品作りで、創作意欲や学齢が違う子に対する思いやりが育っていると感じます」、「イベントが、楽しいよう積極的に取り組んでいます」等の好意的な声が多く寄せられています。一方で、より広い活動スペースを求める意見も見られました。

利用者調査結果

共通評価項目	実数			
	はい	どちらとも いえない	いいえ	無回答 非該当
コメント				
1. 学童保育所の利用を開始する際、利用方法等についての十分な説明はありましたか	18	0	0	0
回答割合は、「はい」が100%となっています。 自由記述には、コメントは寄せられていませんでした。				
2. 学童保育所での活動や遊びの際に守るべきルールや決まりについて、お子さんは納得していると感じますか	18	0	0	0
回答割合は、「はい」が100%となっています。 自由記述には、コメントは寄せられていませんでした。				

3. 学童保育所での活動は、お子さんの心身の発達や成長に役立っていると思いますか	18	0	0	0
回答割合は、「はい」が100%となっています。 自由記述には、コメントは寄せられていませんでした。				
4. 職員は一人ひとりの子どもの状況を把握する努力をしていると感じますか	18	0	0	0
回答割合は、「はい」が100%となっています。 自由記述には、「学齢や個人の性格など、多方面で配慮したプログラム、子ども達のために考えて下さっているのが伝わる」とのコメントが寄せられていました。				
5. 学童保育所での行事や活動プログラムの企画に、子どもの意見が反映されていると感じますか	17	1	0	0
回答割合は、「はい」が94.4%、「どちらともいえない」が5.6%となっています。 自由記述には、コメントは寄せられていませんでした。				
6. 学童保育所での外遊びや行事などにより、お子さんが自然や地域社会と関わる機会は十分確保されていると思いますか	15	3	0	0
回答割合は、「はい」が83.3%、「どちらともいえない」が16.7%となっています。 自由記述には、「コロナ禍で難しいのかなと思います」とのコメントが寄せられていました。				
7. 帰りの時間やお迎え方法などの変更を連絡した場合は、職員は柔軟に受け入れ、確実に対応してくれますか	18	0	0	0
回答割合は、「はい」が100%となっています。 自由記述には、「一人帰りの日に家についてから鍵をなくしたと気づいたときは一度退室したにも関わらず親が迎えに行くまで受け入れてくれ、とても感謝しています」とのコメントが寄せられていました。				
8. 保護者が参加する行事の日程は、保護者が参加しやすいように配慮がされていると感じますか	11	5	0	2
回答割合は、「はい」が61.1%、「どちらともいえない」が27.8%となっています。 自由記述には、「コロナ禍対策もありオンラインも導入して下さい感謝です、私が個人的にスケジュールが合わずに不参加で申し訳ない」とのコメントが寄せられていました。				
9. 学童保育所と小学校との連携はうまくいっていると感じますか	13	4	1	0
回答割合は、「はい」が72.2%、「どちらともいえない」が22.2%、「いいえ」が5.6%となっています。 自由記述には、「小学校側の対応に困ったことがあった。校内にある学童ではないためか、理解されていないように感じる。学童側については、対応に困ったことはない」とのコメントが寄せられていました。				

10. 学童保育所内は清潔で整理された空間になっていると感じますか	16	2	0	0
<p>回答割合は、「はい」が88.9%、「どちらともいえない」が11.1%となっています。 自由記述には、「狭いながらも整理整頓されていると思います。ただスペースがとても狭いのもっと広いスペースであればと、大変勝手ながら感じています」とのコメントが寄せられていました。</p>				
11. あなたは、職員の言葉遣いや態度、服装などが適切だと感じますか	18	0	0	0
<p>回答割合は、「はい」が100%となっています。 自由記述には、コメントは寄せられていませんでした。</p>				
12. お子さんがけがをしたり、体調が悪くなったときの、職員の対応は信頼できますか	18	0	0	0
<p>回答割合は、「はい」が100%となっています。 自由記述には、コメントは寄せられていませんでした。</p>				
13. 子ども同士のトラブルやいじめ等があった場合の職員の対応は信頼できますか	14	3	0	1
<p>回答割合は、「はい」が77.8%、「どちらともいえない」が16.7%となっています。 自由記述には、「年齢が違くと、それぞれの対応を個別化され、かなり気を遣われていると思います」とのコメントが寄せられていました。</p>				
14. 台風・地震・火災等の災害や不審者等に関する情報や対応についての連絡は入りますか	11	5	0	2
<p>回答割合は、「はい」が61.1%、「どちらともいえない」が27.8%となっています。 自由記述には、コメントは寄せられていませんでした。</p>				
15. あなたは、職員が個々のお子さんの気持ちを大切にしながら対応してくれていると感じますか	17	1	0	0
<p>回答割合は、「はい」が94.4%、「どちらともいえない」が5.6%となっています。 自由記述には、コメントは寄せられていませんでした。</p>				
16. あなたやお子さんのプライバシー（他の人に見られたくない、聞かれたくない、知られたくないと思うこと）を職員は守ってくれていると感じますか	16	1	0	1
<p>回答割合は、「はい」が88.9%、「どちらともいえない」が5.6%となっています。 自由記述には、コメントは寄せられていませんでした。</p>				

17. お子さんの様子や支援内容についての職員からの説明は、わかりやすいと思いますか	18	0	0	0
<p>回答割合は、「はい」が100%となっています。 自由記述には、「通級に通う際の資料をお渡ししたときに先生方で共有し、特性をご理解いただき、サポートや声かけをしていただきました。感謝しています」とのコメントが寄せられていました。</p>				
18. 学童保育所に対して要望・相談・苦情等を言いやすい雰囲気はありますか	17	1	0	0
<p>回答割合は、「はい」が94.4%、「どちらともいえない」が5.6%となっています。 自由記述には、コメントは寄せられていませんでした。</p>				
19. あなたが不満に思ったことや要望を伝えたとき、職員はきちんと対応してくれていると感じますか	16	0	0	2
<p>回答割合は、「はい」が88.9%となっています。 自由記述には、コメントは寄せられていませんでした。</p>				
20. お子さんの子育てでの悩みなどについて職員と話したり相談したりすることができるような信頼関係はありますか	15	2	0	1
<p>回答割合は、「はい」が83.3%、「どちらともいえない」が11.1%となっています。 自由記述には、コメントは寄せられていませんでした。</p>				

I 組織マネジメント項目(カテゴリー1～5、7)

No.	共通評価項目	
	カテゴリー1	
1	リーダーシップと意思決定	
	サブカテゴリー1(1-1)	
	事業所が目指していることの実現に向けて一丸となっている	サブカテゴリー毎の標準項目実施状況
	評価項目1 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)を周知している 評点(〇〇)	
	評価	標準項目
	●あり ○なし	1. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)について、職員の理解が深まるような取り組みを行っている ○非該当
	●あり ○なし	2. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)について、利用者本人や家族等の理解が深まるような取り組みを行っている ○非該当
	評価項目2 経営層(運営管理者含む)は自らの役割と責任を職員に対して表明し、事業所をリードしている 評点(〇〇)	
	評価	標準項目
	●あり ○なし	1. 経営層は、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けて、自らの役割と責任を職員に伝えている ○非該当
	●あり ○なし	2. 経営層は、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けて、自らの役割と責任に基づいて職員が取り組むべき方向性を提示し、リーダーシップを発揮している ○非該当
	評価項目3 重要な案件について、経営層(運営管理者含む)は実情を踏まえて意思決定し、その内容を関係者に周知している 評点(〇〇〇)	
	評価	標準項目
	●あり ○なし	1. 重要な案件の検討や決定の手順があらかじめ決まっている ○非該当
	●あり ○なし	2. 重要な意思決定に関し、その内容と決定経緯について職員に周知している ○非該当
	●あり ○なし	3. 利用者等に対し、重要な案件に関する決定事項について、必要に応じてその内容と決定経緯を伝える ○非該当
	カテゴリー1の講評	
	<p>学童クラブの運営方針について、職員や保護者の理解を深めることに努めています</p> <p>当学童クラブの運営理念は、会社のホームページに掲載したり、クラブ内に掲示して知らせています。保護者には入所説明会や保護者会を通じて説明・周知を行っています。今後は、会社や当学童クラブが目指す姿について「入所のしおり」には載せるなど、口頭だけでなく文書で保護者に分かりやすく伝えていく対応も期待されます。職員は入社時に会社の運営理念等の説明を受け、当学童クラブでは毎月のミーティング時に唱和する時間を設けています。年間・月間のクラブ目標を定めて施設内に掲示し、保護者には保護者会や個人面談の機会に知らせています。</p> <p>施設長は、当学童クラブの目指す目標の実現に向けて、職員に方向性を明示しています</p> <p>施設長は目指す目標の実現に向けて、職員がやりがいを持ち楽しく働ける職場づくりやアクシデントゼロの継続、子どもが楽しんで通える学童クラブを目指して多くのイベントを企画しています。職員には年度当初のミーティングや面談で説明し、これらの実現のために職員の職務分担を示すとともに、年間クラブ目標「相手の気持ちを考え、思いやりを大切にしよう」に基づき、目標達成に向けた体制作りに尽力しています。今後はさらに、目標に向けたねらいや取り組みを策定し、より良い学童クラブにするために職員が共通認識を持つことが必要と思われる。</p> <p>意思決定の流れは明確になっていますが、職員への情報提供の充実が期待されます</p> <p>社内共通の「学童クラブ・児童館業務マニュアル」には、「重要事項の社内決定フロー」が明示されています。経営層・事業本部の決定事項は本部ミーティング、学童の責任者会議により施設長が把握し、職員に周知するトップダウンのフローと、職員からの発案等を施設長を通じてエリア長や本部の推進担当者に上げ、経営層・事業本部で検討・決定するボトムアップの流れが明確になっています。保護者には、毎月のこどもクラブだよりや手紙を配付し、保護者会や個人面談でも必要事項を伝えていますが、職員への情報提供の充実を図ることが期待されます。</p>	

カテゴリー2		
2 事業所を取り巻く環境の把握・活用及び計画の策定と実行		
サブカテゴリー1(2-1)		
事業所を取り巻く環境について情報を把握・検討し、課題を抽出している		サブカテゴリー毎の標準項目実施状況
評価項目1 事業所を取り巻く環境について情報を把握・検討し、課題を抽出している		評点(○○○○○)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 利用者アンケートなど、事業所側からの働きかけにより利用者の意向について情報を収集し、ニーズを把握している	○非該当
●あり ○なし	2. 事業所運営に対する職員の意向を把握・検討している	○非該当
●あり ○なし	3. 地域の福祉の現状について情報を収集し、ニーズを把握している	○非該当
●あり ○なし	4. 福祉事業全体の動向(行政や業界などの動き)について情報を収集し、課題やニーズを把握している	○非該当
●あり ○なし	5. 事業所の経営状況を把握・検討している	○非該当
●あり ○なし	6. 把握したニーズ等や検討内容を踏まえ、事業所として対応すべき課題を抽出している	○非該当
サブカテゴリー2(2-2)		
実践的な計画策定に取り組んでいる		サブカテゴリー毎の標準項目実施状況
評価項目1 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた中・長期計画及び単年度計画を策定している		評点(●●●)
評価	標準項目	
○あり ●なし	1. 課題をふまえ、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた中・長期計画を策定している	○非該当
○あり ●なし	2. 中・長期計画をふまえた単年度計画を策定している	○非該当
○あり ●なし	3. 策定している計画に合わせた予算編成を行っている	○非該当
評価項目2 着実な計画の実行に取り組んでいる		評点(○●)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた、計画の推進方法(体制、職員の役割や活動内容など)、目指す目標、達成度合いを測る指標を明示している	○非該当
○あり ●なし	2. 計画推進にあたり、進捗状況を確認し(半期・月単位など)、必要に応じて見直しをしながら取り組んでいる	○非該当

カテゴリ2の講評	
<p>子どもや保護者、職員から意見や要望を聞く機会を設け、施設運営に活かしています</p> <p>今年度初めて第三者評価を受審し、保護者や職員の意向やニーズを把握して次年度の課題設定の参考にすることに取り組んでいます。系列施設の学童アンケートを参考に、昨年度より独自のアンケートも実施していますが、特に意見は寄せられませんでした。保護者には個人面談や保護者会の中で意見や要望を聴いて把握し、職員に関しては、今年度の第三者評価での自己評価や年4回の施設長による面談を通じて意見や要望を確認しています。子どもたちからは、育成の中で直接話を聴いたり、「ご意見ボックス」を設置して声を集め、施設運営に活かしています。</p> <p>稲城市へ月例報告を提出したり、系列施設のエリア会議で他施設の情報を共有しています</p> <p>稲城市の児童青少年課に、月例報告書を毎月提出して、当学童クラブの状況を伝えています。三鷹市、稲城市、練馬区が社内の系列施設の1エリアとなっており、毎月エリア会議を実施して各学童の子どもを取り巻く地域の現状等を伝え合い、情報を交換しています。施設長が集まる本部ミーティングで、当学童クラブの年間・月間の予算や収支報告等の経営状況が伝えられており、施設長は毎月の社内申請の際に再確認しています。学童クラブの経営状況は職員には伝えていませんが、一定の情報は職員とも共有し、施設運営への理解につなげることが期待されます。</p> <p>当学童クラブが目指していることの実現に向けた中・長期計画の策定と実行が望まれます</p> <p>学童クラブの年間目標に「相手の気持ちを考え、思いやりを大切にしよう」掲げて、全職員が連携を図り、子どもの育成に取り組んでいます。単年度計画として年間クラブ目標・行事計画はあるものの、目指している施設運営の在り方や、業務内容、職員間の連携、職員育成、地域との関係等の課題を整理し、明確にすることが期待されます。今後、複数年度に亘る中・長期の課題や目標を取りまとめた中・長期計画を策定し、単年度の活動と一貫性を持たせながら取り組むとともに、定期的に進捗状況を確認し、その成果を明らかにしていくことが望まれます。</p>	
カテゴリ3	
3 経営における社会的責任	
サブカテゴリ1(3-1)	
<p>社会人・福祉サービス事業者として守るべきことを明確にし、その達成に取り組んでいる</p> <p style="text-align: right;">サブカテゴリ毎の標準項目実施状況</p>	
<p>評価項目1 社会人・福祉サービスに従事する者として守るべき法・規範・倫理などを周知し、遵守されるよう取り組んでいる</p> <p style="text-align: right;">評点(〇〇)</p>	
評価	標準項目
◎あり ○なし	1. 全職員に対して、社会人・福祉サービスに従事する者として守るべき法・規範・倫理(個人の尊厳を含む)などを周知し、理解が深まるよう取り組んでいる
◎あり ○なし	2. 全職員に対して、守るべき法・規範・倫理(個人の尊厳を含む)などが遵守されるよう取り組み、定期的を確認している。
○あり ◎なし	○非該当
◎あり ○なし	○非該当
サブカテゴリ2(3-2)	
<p>利用者の権利擁護のために、組織的な取り組みを行っている</p> <p style="text-align: right;">サブカテゴリ毎の標準項目実施状況</p>	
<p>評価項目1 利用者の意向(意見・要望・苦情)を多様な方法で把握し、迅速に対応する体制を整えている</p> <p style="text-align: right;">評点(〇●)</p>	
評価	標準項目
○あり ◎なし	1. 苦情解決制度を利用できることや事業者以外の相談先を遠慮なく利用できることを、利用者に伝えている
◎あり ○なし	2. 利用者の意向(意見・要望・苦情)に対し、組織的に速やかに対応する仕組みがある
○あり ◎なし	○非該当
◎あり ○なし	○非該当
<p>評価項目2 虐待に対し組織的な防止対策と対応をしている</p> <p style="text-align: right;">評点(〇〇)</p>	
評価	標準項目
◎あり ○なし	1. 利用者の気持ちを傷つけるような職員の言動、虐待が行われることのないよう、職員が相互に日常の言動を振り返り、組織的に防止対策を徹底している
◎あり ○なし	2. 虐待を受けている疑いのある利用者の情報を得たときや、虐待の事実を把握した際には、組織として関係機関と連携しながら対応する体制を整えている
○あり ◎なし	○非該当
◎あり ○なし	○非該当

サブカテゴリ-3(3-3)

地域の福祉に役立つ取り組みを行っている

サブカテゴリ毎の
標準項目実施状況

評価項目1

透明性を高め、地域との関係づくりに向けて取り組んでいる

評点(〇〇)

評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 透明性を高めるために、事業所の活動内容を開示するなど開かれた組織となるよう取り組んでいる	○非該当
●あり ○なし	2. ボランティア、実習生及び見学・体験する小・中学生などの受け入れ体制を整備している	○非該当

評価項目2

地域の福祉ニーズにもとづき、地域貢献の取り組みをしている

評点(〇〇●)

評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 地域の福祉ニーズにもとづき、事業所の機能や専門性をいかした地域貢献の取り組みをしている	○非該当
●あり ○なし	2. 事業所が地域の一員としての役割を果たすため、地域関係機関のネットワーク(事業者連絡会、施設長会など)に参画している	○非該当
○あり ●なし	3. 地域ネットワーク内での共通課題について、協働できる体制を整えて、取り組んでいる	○非該当

カテゴリ-3の講評

職員ミーティングや職員面談等で、子どもや大人の人権を大切にすることを伝えています

職員が守るべき法・規範・倫理等は、「学童クラブ・児童館業務マニュアル」に記載されています。子どもや大人の人権を守ることができるように、職員ミーティングや個人面談時に伝え、自分の行動を振り返る「チェックリスト」を毎月実施しています。子どもたちが考えた「ちくちくことば」、「ふわふわことば」として具体的な言葉を室内に掲示しています。子どもだけでなく大人の人権も守るために、職員への意識付けを行うとともに、子どもの乱暴な言葉や人を傷つける言葉等には適切に指導し、誰にとっても安心・安全な環境となるように努めています。

社外の意見・要望・苦情等の相談窓口についても、保護者に周知することが望まれます

苦情解決制度を設置し、意見・要望・苦情の申し出先として、「入所のしおり」に会社本部の連絡先を記載しています。利用者保護の観点からは、市の担当課等、外部の相談窓口の連絡先も記載し、保護者に周知することが期待されます。苦情があった際には速やかに対応するとともに、クレーム受理票を起票して本部とも情報を共有しています。職員は、子どもが虐待等の被害に遭わないよう日々様子を確認し、気になる点があれば施設長に報告して職員間での情報共有を図り、必要に応じて子ども家庭支援センター等と連携して対処する体制を整えています。

学童クラブで考えている地域に向けた活動を実現するための取り組みが期待されます

年度当初に近隣の商店に挨拶に行き、当学童クラブを知ってもらう機会を作っています。小学校とは1年生と教諭が当学童の見学に来て施設内を見たり、質問を受ける機会を持っています。系列保育園とのオンライン交流は、6保育園と4回ずつ実施し、学童の子どもたちが考えて質問コーナーやお絵かきクイズ等で交流を楽しんでいます。当学童クラブでは、イベントへのシルバー人材センターの人の招待や、高齢者施設との交流、年長児の学童体験等の機会も設けたいと考えていますが、実現には至っておらず、各関係者への働きかけ等の取り組みが期待されます。

カテゴリ-4		
4 リスクマネジメント		
サブカテゴリ-1(4-1)		
リスクマネジメントに計画的に取り組んでいる		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況
評価項目1 事業所としてリスクマネジメントに取り組んでいる		評点(○○○○●)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 事業所が目指していることの実現を阻害する恐れのあるリスク(事故、感染症、侵入、災害、経営環境の変化など)を洗い出し、どのリスクに対策を講じるかについて優先順位をつけている	○非該当
●あり ○なし	2. 優先順位の高さに応じて、リスクに対し必要な対策をとっている	○非該当
○あり ●なし	3. 災害や深刻な事故等に遭遇した場合に備え、事業継続計画(BCP)を策定している	○非該当
●あり ○なし	4. リスクに対する必要な対策や事業継続計画について、職員、利用者、関係機関などに周知し、理解して対応できるように取り組んでいる	○非該当
●あり ○なし	5. 事故、感染症、侵入、災害などが発生したときは、要因及び対応を分析し、再発防止と対策の見直しに取り組んでいる	○非該当
サブカテゴリ-2(4-2)		
事業所の情報管理を適切に行い活用できるようにしている		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況
評価項目1 事業所の情報管理を適切に行い活用できるようにしている		評点(○○○●)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 情報の収集、利用、保管、廃棄について規程・ルールを定め、職員(実習生やボランティアを含む)が理解し遵守するための取り組みを行っている	○非該当
●あり ○なし	2. 収集した情報は、必要な人が必要なときに活用できるように整理・管理している	○非該当
●あり ○なし	3. 情報の重要性や機密性を踏まえ、アクセス権を設定するほか、情報漏えい防止のための対策をとっている	○非該当
○あり ●なし	4. 事業所で扱っている個人情報については、「個人情報保護法」の趣旨を踏まえ、利用目的の明示及び開示請求への対応を含む規程・体制を整備している	○非該当
カテゴリ-4の講評		
<p>会社本部の安全管理委員会を中心に、リスクに対する必要な対策を実施しています</p> <p>運営理念に「安心と安全を第一に考えた学童保育の運営」を掲げ、会社本部に設置された安全管理委員会を中心に、安全対策ガイドライン・安全管理システムを策定し、リスクに対する必要な対策を講じています。事故等が起きた場合には、「アクシデント対応基準」に沿って対応しています。本部の安全対策課から他施設でのアクシデント情報が随時配信され、職員間で再発防止の検討や注意喚起に努めています。道路に面している学童クラブであるため、子どもの登室の時間には職員が玄関の開閉を行い、毎回周囲にも気を配るなど、安全に配慮しています。</p> <p>安全対策ガイドラインの充実を図り、災害時のBCPとして発展されることが望まれます</p> <p>各種マニュアルや「安全対策ガイドライン」を整備し、定期的な避難訓練等のほか、月1回CPR(心肺蘇生法)訓練を実施し、緊急時の職員の対応力の向上を図っています。今後に向けては、年間の見通しを持った計画の作成が望まれます。考えられるリスクを幅広く洗い出し、優先順位を明確にして体系的・長期的な視点でリスクマネジメントを行うことが求められていることから、災害時の事業継続のための方法や手段等を取り決めておく事業継続計画(BCP)の策定に発展させ、地域の関係者・関係機関とも協力できる体制作りを進めることが望まれます。</p> <p>個人情報の利用目的や開示請求方法を、保護者に分かりやすく示すことが望まれます</p> <p>業務マニュアルに個人情報に関する規定を明示し、職員には入社時に守秘義務の契約書を会社に提出することを義務付けています。個人情報保護法の改正に伴い社内研修が強化されており、職員は情報漏洩対策への意識を高めています。学童クラブでも年3回、定期的に読み合わせを実施し、学童で知り得た情報を口外しないように全職員に周知徹底しています。個人情報が含まれる書類は鍵付きの棚に保管し、パソコンにはパスワードを設定しています。今後は保護者に向けて、個人情報の利用目的や開示請求の方法を分かりやすく示すことが望まれます。</p>		

5 職員と組織の能力向上		サブカテゴリ1(5-1)	
事業所が目指している経営・サービスを実現する人材の確保・育成・定着に取り組んでいる		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況	
評価項目1 事業所が目指していることの実現に必要な人材構成にしている		評点(〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 事業所が求める人材の確保ができるよう工夫している		○非該当
●あり ○なし	2. 事業所が求める人材、事業所の状況を踏まえ、育成や将来の人材構成を見据えた異動や配置に取り組んでいる		○非該当
評価項目2 事業所の求める人材像に基づき人材育成計画を策定している		評点(〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 事業所が求める職責または職務内容に応じた長期的な展望(キャリアパス)が職員に分かりやすく周知されている		○非該当
●あり ○なし	2. 事業所が求める職責または職務内容に応じた長期的な展望(キャリアパス)と連動した事業所の人材育成計画を策定している		○非該当
評価項目3 事業所の求める人材像を踏まえた職員の育成に取り組んでいる		評点(〇〇〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 勤務形態に関わらず、職員にさまざまな方法で研修等を実施している		○非該当
●あり ○なし	2. 職員一人ひとりの意向や経験等に基づき、個人別の育成(研修)計画を策定している		○非該当
●あり ○なし	3. 職員一人ひとりの育成の成果を確認し、個人別の育成(研修)計画へ反映している		○非該当
●あり ○なし	4. 指導を担当する職員に対して、自らの役割を理解してより良い指導ができるよう組織的に支援を行っている		○非該当
評価項目4 職員の定着に向け、職員の意欲向上に取り組んでいる		評点(〇〇〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 事業所の特性を踏まえ、職員の育成・評価と処遇(賃金、昇進・昇格等)・称賛などを連動させている		○非該当
●あり ○なし	2. 就業状況(勤務時間や休暇取得、職場環境・健康・ストレスなど)を把握し、安心して働き続けられる職場づくりに取り組んでいる		○非該当
●あり ○なし	3. 職員の意識を把握し、意欲と働きがいの向上に取り組んでいる		○非該当
●あり ○なし	4. 職員間の良好な人間関係構築のための取り組みを行っている		○非該当

サブカテゴリ-2(5-2)

組織力の向上に取り組んでいる

サブカテゴリ毎の
標準項目実施状況

評価項目1

組織力の向上に向け、組織としての学びとチームワークの促進に取り組んでいる

評点(〇〇〇)

評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 職員一人ひとりが学んだ研修内容を、レポートや発表等を通じて共有化している	○非該当
●あり ○なし	2. 職員一人ひとりの日頃の気づきや工夫について、互いに話し合い、サービスの質の向上や業務改善に活かす仕組みを設けている	○非該当
●あり ○なし	3. 目標達成や課題解決に向けて、チームでの活動が効果的に進むよう取り組んでいる	○非該当

カテゴリ-5の講評

人材育成ビジョンに等級別職務分掌等を明示し、等級に応じた研修制度を設けています

正規職員の採用は会社で行い、非正規職員は施設長と会社の採用担当が連携して面接を行い、子どもとの関わりの中で守るべき規範を重視できる人材を採用しています。当学童クラブは定員が28名の小規模な施設で、非正規を含む全職員が施設長が決定した業務を分担しています。会社のキャリアパスとして人材育成ビジョンがあり、等級ごとに職務分掌や必要とされる能力、研修等を明示しています。しかし、職員の自己評価では、キャリアパスの理解が進んでいない状況も窺え、非正規を含む全職員への分かりやすい説明をさらに工夫することが期待されます。

目標管理の面談を実施していますが、全職員の意欲向上に向けた取り組みも期待されます

会社の階層別研修が年間を通じて用意され、等級に応じた育成の仕組みが整っています。各等級に該当する全ての研修を受けることがステップアップの要件の一つとされており、正規職員は自身で個人別年間研修計画を作成しています。さらに、施設長と四半期ごとに目標管理シートを基に面談を行い、個人目標や課題、目標達成ポイント等を設定の上、進捗状況や次の課題を確認しています。第三者評価の職員の自己評価では、良好な人間関係はあるものの、働きがいの向上にはつながっていないようです。全職員の意欲向上に向けた取り組みが期待されます。

面談や業務分担を行い、非正規を含む全職員が意見を出し合える関係作りに努めています

年2回、系列施設共通の査定シートを基に、本人、施設長、本部による評価を行い、個々の賞与や昇給に反映する人事考課制度を導入しています。非正規職員とは目標管理のための面談を実施しないため、査定時のほか、年に数回、面談の機会を設けています。当学童クラブはワンフロアで運営しており、非正規を含む6名の職員が連携を図り業務を進めています。施設長は、子どもから見て同じ職員という立場で運営に関わって欲しいと考え、業務の分担を行っています。非正規職員の意見を活かして変更を行うなど、意見を出し合える関係作りに努めています。

カテゴリー7

7 事業所の重要課題に対する組織的な活動

サブカテゴリー1(7-1)

事業所の重要課題に対して、目標設定・取り組み・結果の検証・次期の事業活動等への反映を行っている

評価項目1

事業所の理念・基本方針の実現を図る上での重要課題について、前年度具体的な目標を設定して取り組み、結果を検証して、今年度以降の改善につなげている(その1)

前年度の重要課題に対する組織的な活動(評価機関によるまとめ)

クラブ目標を達成するために、当学童クラブの子どもの課題である「1.基本的な生活習慣を習得する」、「2.遊びの中で子どもが主体的に行動する力を身に付ける」を重点課題として取り組むことにしました。
 「1.基本的な生活習慣を習得すること」については、手洗いや挨拶をする、決められた時間を守るなどの基本的な生活習慣が身に付けられるように、日々の育成の中で手洗いやうがいの声かけをしたり、切り替えの時間ごとにこまめに声かけをしてきました。
 「2.遊びの中で子どもが主体的に行動する力を身に付ける」については、何をして遊ぶか自分では考えられず、暇だから遊びを提供してほしいなどの子どもの声がありました。課題の達成のため、1~4年生までを班に分け、イベントの夏祭りに取り組みました。子どもたちが内容を決めて、自分たちの手で準備を進められるように職員がサポートしました。お店の内容も、「アスレチックわなげ」(スズランテープをくぐってからの輪投げ)、「すいかのだいぼうけん」(紙で作ったボールを割りばしで運んでいく)等、考えて楽しめる夏祭りが実施できました。さらに今後は、日々の育成の中でできることを継続していきたいと考えました。

<p>目標の設定と取り組み</p>	<ul style="list-style-type: none"> <input checked="" type="radio"/> 具体的な目標を設定し、その達成に向けて取り組みを行った <input type="radio"/> 具体的な目標を設定したが、その達成に向けて取り組みが行われていなかった <input type="radio"/> 具体的な目標が設定されていなかった
<p>取り組みの検証</p>	<ul style="list-style-type: none"> <input checked="" type="radio"/> 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行った <input type="radio"/> 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行っていなかった(目標設定を行っていなかった場合も含む) <input type="radio"/> 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である
<p>検証結果の反映</p>	<ul style="list-style-type: none"> <input checked="" type="radio"/> 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させた <input type="radio"/> 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させていない <input type="radio"/> 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である

評価項目1で確認した組織的な活動や評語の選択に関する講評

1の生活習慣の習得については、職員の声かけが多く聞かれ、子どもが自分で気付くような仕組みができると良かったと考えており、声かけだけでなく、音楽や自分たちで気付ける方法を模索しています。
 2の主体的に行動する力を身に付けるために、イベントの夏祭りを子どもたちが企画から実施までの運営に取り組み、考えて楽しめる夏祭りが実施できました。さらに今後は日々の育成の中でできることを継続して実施していくことが期待されます。
 当学童クラブは、ワンフロアの育成室に定員が28名で、今年度は1~4年生を受け入れています。そのため職員の眼が行き届き、声をかけることが多くなる現状があり、子どもが考えて行動する機会が少ないと思われます。今後は、職員間で育成に向けた子どもたちへの関わり方を統一し、さらに子どもたちの学年別の目標を定めて、目標達成に向けて継続した取り組みが期待されます。

評価項目2

事業所の理念・基本方針の実現を図る上での重要課題について、前年度具体的な目標を設定して取り組み、結果を検証して、今年度以降の改善につなげている(その2)

前年度の重要課題に対する組織的な活動(評価機関によるまとめ)

職員の人数が少ない中でコミュニケーションが取りにくい現状があることや、非正規を含む全職員が責任感とやりがいを持てることを目標に定め、取り組むことを重点課題としました。また、子どもたちが職員の立場の違い(正規・非正規職員)を感じないように、イベント実施の担当に非正規職員も加わり、企画や事前の準備、当日の進行まで担当することとしました。職員同士のコミュニケーションを取れるように二人体制で担当し、年間の担当表を作成して時間にも気持ちにも余裕が持てるようにしました。イベントの担当になった職員は、企画や事前の準備、当日の進行まで実施することができ、今回の第三者評価の職員自己評価には前年度の取り組みにより良くなった点として、「イベントの役割を年間通して事前に分担することにより、時間にも気持ち的にも余裕ができた」、「イベントの企画を一人で孤立させず、チームとして取り組んでいるところ」等のコメントが寄せられていました。一方で、施設長との個人面談では、準備に時間がかかり自宅に持って帰らないとできないことや、チームでの担当が必ずしも良好なコミュニケーションにつながらないこと等が分かりました。

<p>目標の設定と取り組み</p>	<ul style="list-style-type: none"> <input checked="" type="radio"/> 具体的な目標を設定し、その達成に向けて取り組みを行った <input type="radio"/> 具体的な目標を設定したが、その達成に向けて取り組みが行われていなかった <input type="radio"/> 具体的な目標が設定されていなかった
<p>取り組みの検証</p>	<ul style="list-style-type: none"> <input checked="" type="radio"/> 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行った <input type="radio"/> 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行っていなかった(目標設定を行っていなかった場合も含む) <input type="radio"/> 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である
<p>検証結果の反映</p>	<ul style="list-style-type: none"> <input checked="" type="radio"/> 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させた <input type="radio"/> 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させていない <input type="radio"/> 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である

評価項目2で確認した組織的な活動や評語の選択に関する講評

実施したことを振り返り、非正規職員の意見も考慮しながら、イベントに関わる回数を減らすことや、施設長の意図をより明確に伝えて行くことも必要と思われれます。今後は、コミュニケーションを取る時間を工夫して作り、全職員で施設の現状を把握して、なぜ取り組むのか、取り組むことの意義が伝わるように発信し、子どもたちの育成支援の充実につながる取り組みとして、継続していくことが期待されます。

Ⅱ サービス提供のプロセス項目(カテゴリ6-1～3、6-5～6)

No.	共通評価項目		
サブカテゴリ-1			
1	サービス情報の提供	サブカテゴリ毎の標準項目実施状況	4/4
評価項目1 利用希望者等に対してサービスの情報を提供している		評点(0000)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 利用希望者等が入手できる媒体で、事業所の情報を提供している	○非該当	
●あり ○なし	2. 利用希望者等の特性を考慮し、提供する情報の表記や内容をわかりやすいものになっている	○非該当	
●あり ○なし	3. 事業所の情報を、行政や関係機関等に提供している	○非該当	
●あり ○なし	4. 利用希望者等の問い合わせや見学の実望があった場合には、個別の状況に応じて対応している	○非該当	
サブカテゴリ-1の講評			
<p>市の学童クラブ一覧や会社のホームページ、「入所のしおり」等で情報を紹介しています</p> <p>矢野口こどもクラブの情報は、稲城市の学童クラブ一覧や会社のホームページ、入所のしおり、ブログ等で紹介しています。当学童クラブのブログ(学童日記)は、職員がタイトルと写真、コメントを付けて紹介しており、当学童クラブの活動や子どもたちの様子、取り組みが保護者に伝わるように、毎月更新しています。入所のしおりには、民設民営の学童クラブであるものの、原則的に稲城市の公立学童クラブに準じた運営を行っていることや、学童クラブの生活と家庭との連携のことなど、入所に関する具体的な情報を記載しています。</p> <p>市へは民営クラブ実績報告書を提出していますが、関係施設への情報提供が期待されます</p> <p>毎月、日々の出席児童数や登録児童数、開所日数、土曜日開所日数、事故報告を記載した民間クラブ実績報告書を稲城市に提出しています。市のホームページの学童保育一覧に、民間事業者に運営委託している民設民営クラブであることや電話番号、運営事業者、地図の情報を提供しています。当学童クラブは小規模の単独広域学童クラブであるため、近隣の保育園や地域等に、「矢野口こどもクラブ」の案内を配付する等して当学童を知ってもらい、地域と連携して子どもを見守っていくことができる関係を築いていけるよう働きかけを行うことが期待されます。</p> <p>入所希望者からの要望に応じて子どものいる時間帯に見学を行い、丁寧に説明しています</p> <p>利用希望者からの要望に応じて、見学の希望があれば随時行っています。見学の際には施設長が対応して、時間帯はいつでも柔軟に対応し受けています。見学はできる限り子どものいる時間帯(14時から17時から)で実施し、子どもの遊びやおやつの様子、過ごし方、職員の対応等を見てもらいながら学童クラブについて丁寧に説明し、保護者の不安軽減に努めています。今後は、見学者に感想や育成支援に対する意見や要望等を記載してもらい、集約して、学童クラブの支援や活動内容に対する地域ニーズの把握につなげることが期待されます。</p>			
サブカテゴリ-2			
2	サービスの開始・終了時の対応	サブカテゴリ毎の標準項目実施状況	6/6
評価項目1 サービスの開始にあたり保護者に説明し、同意を得ている		評点(000)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. サービスの開始にあたり、基本的ルール、重要事項等を保護者の状況に応じて説明している	○非該当	
●あり ○なし	2. サービス内容について、保護者の同意を得るようにしている	○非該当	
●あり ○なし	3. サービスに関する説明の際に、保護者の意向を確認し、記録化している	○非該当	

評価項目2 サービスの開始及び終了の際に、環境変化に対応できるよう支援を行っている		評点(〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. サービス開始時に、子どもの育成支援に必要な個別事情や要望を決められた書式に記録し、把握している	○非該当
●あり ○なし	2. 利用開始直後には、子どもの不安やストレスが軽減されるように配慮している	○非該当
●あり ○なし	3. サービスの終了時には、子どもや保護者の不安を軽減し、支援の継続性に配慮した支援を行っている	○非該当

サブカテゴリ-2の講評

入所説明会及び保護者会を実施し、保護者の同意が得られるように説明しています
 入所説明会及び保護者会は、3月上旬の土曜日に行い、入所のしおりに沿って説明しています。アレルギー対応や配慮が必要な子ども、また希望者には、個別に時間を設けて対応しています。入所するときには、保護者に個人情報の取り扱いについての確認書やおたより等への写真・名前の掲載についての同意書、延長育成利用申請書等への記入をしてもらい、当学童クラブの登・降室や利用の仕方等の説明を行っています。保護者の状況により入所説明会の日に都合がつかない場合には、別の日に時間を設けて対応するように配慮しています。

入所時の子どもの不安を軽減するために、初日に楽しいイベントを企画しています
 入所時には子どもの不安が軽減されるように、登室初日に楽しいイベント(ウェルカムパーティー)を企画しています。オリエンテーションの中でウェルカムパーティーやミニゲームを実施し、新1年生にミッションカードを渡して4年生が学童内を案内し、2・3年生が各ポイントに待機して、約束事やその場所の使い方、玩具や本の置き場、遊び方等を伝えています。また、基本的な約束が習慣化するように、分かりにくいことは掲示してあります。新1年生が早く慣れ、学童クラブが楽しいと思えるよう、職員と子どもがお互いに覚えられるように努めています。

個人面談等を通じて学童クラブを身近に感じてもらい、継続的な支援に努めています
 卒所の際には、保護者の安心感が得られるように、個人面談で卒所後の生活についての話をしたり、保護者の不安なこと等を聴いています。何かあればいつでも来てほしいことや、相談に乗ることなどを伝えて、継続的な支援につなげています。卒所と同時に子どもたちの居場所が無くなることへの子どもや保護者の不安軽減のために、心理面でのフォローを行い、継続的な育成の視点から学童クラブを身近に感じてもらえるように配慮しています。今後は、卒所後に学童クラブのイベントの案内をしていきたい意向を持っており、関係性の継続が期待されます。

サブカテゴリ-3

3 個別状況の記録と計画策定 サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 11/12

評価項目1 定められた手順に従ってアセスメント(情報収集、分析および課題設定)を行い、子どもの課題を個別のサービス場面ごとに明示している		評点(〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 子どもの心身状況や生活状況等を、組織が定めた統一した様式によって記録し把握している	○非該当
●あり ○なし	2. 子どもや保護者のニーズや課題を明示する手続きを定め、記録している	○非該当
●あり ○なし	3. アセスメントの定期的見直しの時期と手順を定めている	○非該当

評価項目2 全体的な計画や子どもの様子を踏まえた育成支援計画を作成している		評点(〇〇〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 子どもが学童保育所での生活に見通しが持てるように、育成支援の目標や計画を作成している	○非該当
●あり ○なし	2. 育成支援の目標や計画は、子どもの実態や子どもを取り巻く状況の変化に即して、作成、見直しをしている	○非該当
●あり ○なし	3. 個別的な計画が必要な子どもに対しては、子どもの状況(年齢・発達状況など)に応じて、個別的な計画の作成、見直しをしている	○非該当
●あり ○なし	4. 育成支援の目標や計画を保護者にわかりやすく説明している	○非該当
●あり ○なし	5. 育成支援の目標や計画は、見直しの時期・手順等の基準を定め、必要に応じて見直ししている	○非該当

評価項目3 子どもに関する記録が行われ、管理体制を確立している		評点(○●)
------------------------------------	--	--------

評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 子ども一人ひとりに関する必要な情報を記載するしくみがある	○非該当
○あり ●なし	2. 育成支援の目標や計画に沿った具体的な支援内容と、その結果子どもの状態がどのように推移したのかについて具体的に記録している	○非該当

評価項目4 子どもの状況等に関する情報を職員間で共有化している		評点(○○)
------------------------------------	--	--------

評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 育成支援の目標や計画の内容、個人の記録を、育成支援を担当する職員すべてが共有し、活用している	○非該当
●あり ○なし	2. 申し送り・引継ぎ等により、子どもや保護者の状況に変化があった場合の情報を職員間で共有化している	○非該当

サブカテゴリ-3の講評

子どもの心身状況や生活状況を記録し、個別面談で意見や要望を記入しています
 子どもの心身状況や生活状況は、入所時に保護者から聞き取り面談記録表に記入し、把握しています。育成時の状況は、連絡帳やお迎え時の会話、電話連絡で聴いています。また、年2回行っている個別面談で、保護者からの意見や要望を聴き、個々の子どもの生活状況に変化はないかを把握し、面談記録表に記入して、子どもの育成支援に活かしています。個別の対応が必要な場合には、職員が関係機関と連携を取り、児童記録に記録するとともに、保護者と面談を行って情報を共有し、子どもの育成に活かしています。

年間・月間目標を基に育成支援を行っており、保護者への説明の工夫が期待されます
 クラブ目標に「相手の気持ちを考え、思いやりを大切にしよう」を掲げ、「月間目標・行事」を作成し実践しています。保護者には、月の予定、お知らせ等を載せた「矢野口こどもクラブだより」を毎月配付し、アプリの活用も検討しています。保護者に必ず伝えるべき内容はミニレターとして配付しています。保護者会ではクラブ目標・月間目標・行事等を伝えています。今後は、さらに月間目標や各学年の発達の姿を捉えたねらいを明確にし、保護者に取り組みの様子等が伝わり、育成支援の可視化につながるような発信方法を検討することが期待されます。

発達過程を踏まえた育成支援のために、個別の記録を作成することが期待されます
 子どもの情報は職員ミーティングのときに共有し、日誌の「児童に関する特記事項」欄や職員ミーティングの用紙に記載しています。個別の児童記録には小学校との情報共有も記載しています。子どもの発達過程を踏まえ、一人ひとりの心身の状態を把握し、集団の中で子ども同士の関わりを大切にされた育成支援を行うためには、各目標やねらいに基づいた育成支援内容と、子どもの状態がどのように推移したかを捉えることが必要と思われる。子どもの個別の記録を作成してその姿を捉え、年度末だけでなく定期的に全職員で振り返りを行うことが期待されます。

サブカテゴリ-5

5	プライバシーの保護等個人の尊厳の尊重	サブカテゴリ毎の標準項目実施状況	5/5
---	--------------------	------------------	-----

評価項目1 子どものプライバシー保護を徹底している		評点(○○)
------------------------------	--	--------

評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 子どもに関する情報(事項)を外部とやりとりする必要がある場合には、保護者の同意を得るようにしている	○非該当
●あり ○なし	2. 子どもの羞恥心(着替えやトイレ、勉強、家庭の個別事情等)に配慮した育成支援を行っている	○非該当

評価項目2 サービスの実施にあたり、子どもの権利を守り、子どもの意思を尊重している		評点(○○○)
--	--	---------

評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 日常の育成支援の中で、子ども一人ひとりを尊重している	○非該当
●あり ○なし	2. 子どもと保護者の価値観や生活習慣に配慮した育成支援を行っている	○非該当
●あり ○なし	3. 虐待防止や育児困難家庭への支援に向けて、職員の勉強会・研修会を実施し理解を深めている	○非該当

サブカテゴリ-5の講評

子どものプライバシー保護、個人の尊重や羞恥心に配慮した育成に努めています

学童クラブの入所説明会で入園のしおりの「個人情報の取り扱いについて」に沿って説明し、「おたより等への写真・名前の掲載について」、「個人情報の取り扱いについての確認書」に同意の署名を得て保管しています。その他にも、必要に応じてその都度、お便りを配付して同意を得ています。夏の水遊び後の着替えはワンフロアの施設環境の中でも工夫してカーテンで区切ったり、トイレを活用して男女別に着替え、子ども一人ひとりの羞恥心に配慮した育成に努めています。プライベートゾーンに関しては、個々に対応して大切さを知らせています。

子ども一人ひとりを尊重して育成支援ができるように、研修等で学び活かしています

子ども一人ひとりを大切にされた育成につなげられるように、育成室に「ふわふわことば」、「ちくちくことば」を掲示しています。子ども同士が気づいて注意し合う姿やその言葉を聞いてどう思うか等を振り返りながら、職員も子どもたちも活用しています。職員は社内研修の内容やマニュアルを共有して育成支援を行っています。今後は、全職員が個々の子どもを理解できるよう児童記録を活かしていくことも期待されます。日々の育成での気づきをエピソードメモとして残す等の取り組みを非正規を含む全職員で行うことも、子どもの理解につながると思われます。

虐待防止や育児困難家庭への支援の研修により、全職員の理解を進めています

当学童クラブには虐待防止や育児困難家庭への支援について基本となる「虐待対応マニュアル」を備えて、職員研修を受けて学んでいます。報告は職員ミーティングのときに行い、全職員に周知するように努めていますが、第三者評価の職員自己評価からは研修会や勉強会で理解を深めるまでには至っていないようです。子どもや保護者のことで気になるときは、施設長に報告し、虐待防止の早期発見に努め、情報を得たときには本部や市の担当者に迅速に連絡し、子ども家庭支援センターや児童相談所等の関係機関と連携を図る体制を整えています。

サブカテゴリ-6

6 事業所業務の標準化

サブカテゴリ毎の
標準項目実施状況

5/5

評価項目1

手引書等を整備し、事業所業務の標準化を図るための取り組みをしている

評点(〇〇〇)

評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 手引書(基準書、手順書、マニュアル)等で、事業所が提供しているサービスの基本事項や手順等を明確にしている	○非該当
●あり ○なし	2. 提供しているサービスが定められた基本事項や手順等に沿っているかどうか定期的に点検・見直しをしている	○非該当
●あり ○なし	3. 職員は、わからないことが起きた際や業務点検の手段として、日常的に手引書等を活用している	○非該当

評価項目2

サービスの向上をめざして、事業所の標準的な業務水準を見直す取り組みをしている

評点(〇〇)

評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 提供しているサービスの基本事項や手順等は変更の時期や見直しの基準が定められている	○非該当
●あり ○なし	2. 提供しているサービスの基本事項や手順等の見直しにあたり、職員や保護者等からの意見や提案、子どもの様子を反映するようにしている	○非該当

サブカテゴリ-6の講評

会社のマニュアルや当学童クラブのマニュアル等で業務の標準化に努めています

学童クラブの業務に関する事項は、「学童クラブ・児童館業務マニュアル」に定められ、紙ベースのほか、パソコン上の社内サイトでも確認が可能です。他にも、消防訓練及び災害・緊急時対応、事故発生時の対応等のマニュアルも整備し、保管しています。マニュアルは職員ミーティングで定期的に読み合わせ、業務に活かせるように努めています。当学童クラブ独自に土曜日の業務手順書も作成し、非正規を含む全職員が同様の対応を行えるようにしています。さらなる標準化に向けて当学童クラブで必要な事項を全職員で再確認する機会も必要と思われます。

マニュアルに基づき提供している支援内容の再確認や定期的な見直しが期待されます

育成支援の基本的事項や支援内容、活動等の提供に関するマニュアルは、入社時とマニュアル改訂時に職員間で読み合わせを行っています。中でも、登室や降室、戸外活動、おやつ、子どもたちへの関わり、子どもの人権等、業務を行う上で重要なマニュアルについては、読み合わせを行うだけでなく、当学童クラブの実態や目標に応じて、全職員で支援内容の再確認をしたり、定期的な見直しを実施することが期待されます。手順や業務内容で分からないことが起きた際には、すぐに職員に聴いたり、マニュアルの確認を行うように努めています。

職員や保護者、子どもの意見や提案を聞く機会を設けて反映や見直しに活かしています

社内共通のマニュアルの見直しは、本部に設置された業務改善委員会・ジュニアボードを通じて定期的に行われています。保護者の意見や要望は昨年度よりアンケートを実施して把握しています。職員からは個人面談等で意見を吸い上げ、施設の増築を市や会社本部に提案してきましたが、実現には至りませんでした。子どもには「ご意見ボックス」に意見や要望を提案してもらい、職員間で話し合っていますが、子どもから出された意見を皆で考える機会と捉え、育成に活かすことが当学童の目標である「主体的に考えられる子ども」につながると思われます。

Ⅲ サービスの実施項目(カテゴリー6-4)

サービスの実施項目		サブカテゴリー4	
サービスの実施項目		サブカテゴリー毎の標準項目実施状況	
1 評価項目1 子どもの健全育成のための支援を行っている		評点(〇〇〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 学童保育所での生活や遊びのうえで守るべき事項(きまり)が、子どもや保護者に理解できるように伝えている		○非該当
●あり ○なし	2. 子ども自身が見通しを持って、学童保育所で無理なく主体的に過ごし、発達段階に応じた遊びや生活ができるよう、全体の流れや組み立て、内容を工夫している		○非該当
●あり ○なし	3. 子どもが自分の気持ちや意見を表現できるようにするとともに、子ども同士が意見や感情、習慣、文化などの共通性や違いを認め合い、互いを尊重する心を持てるよう援助している		○非該当
●あり ○なし	4. 特別な配慮の必要な子ども(障がいのある子どもを含む)の対応にあたっては、受入れの考え方を理解したうえで、一人ひとりの特性や留意点を踏まえ、関係機関とも連携して適切な支援を行っている		○非該当
評価項目1の講評			
<p>学童クラブのルールは、保護者と子どもたちに分かりやすく丁寧に説明しています</p> <p>学童クラブの利用方法について、入所説明会等で保護者に分かりやすく丁寧に伝えるようにしており、利用者調査の「利用を開始する際、利用方法の十分な説明はあったか」との設問に、回答者全員が「はい」と答えています。子どもたちには、入所時のオリエンテーションで実際に施設内を回りながら、利用する際に必要なルール等について2～4年生から説明を受ける機会を設けています。本の利用方法や手洗い、うがい、玩具の使い方等、生活に必要なルールをイラストと文字で各所に分かりやすく掲示し、具体的にイメージがしやすいように工夫しています。</p> <p>子どもが学童での生活や遊びに見通しが持てるように、様々に働きかけています</p> <p>施設長が年度初めに、クラブ目標や月間目標を子どもたちに分かりやすく伝えて、子どもが見通しを持って一年間が過ごせるように働きかけています。今日のイベントや外遊び、切り替え時間等はホワイトボードに記載し、登室時に子どもたちが確認できるようにしています。子どもは連絡帳を提出後、うがい手洗いをし、おやつ時間まで宿題や読書など時間を20分取っています。長期休暇の一日育成日には、行事・イベント・コンテストに向けた取り組みや楽しい企画を考え、休み中の計画に向けて見通しを持って過ごせるように配慮して支援を行っています。</p> <p>子ども一人ひとりの個性や配慮すべき事柄に留意し、適切な支援の提供に努めています</p> <p>子ども一人ひとりの個性を大切に、配慮すべき事柄に留意して適切な支援ができるように、子どもたちの様子や特記事項を「ミーティング・日誌」に記録しています。「ミーティング・日誌」記録で特に配慮が必要な子どもの理解とともに、非正規を含む全職員が適切な対応ができるように共通理解を図っています。継続した支援につなげられるように、入所前の保育園に聞き取りをして把握し、社内発達支援チームの巡回を依頼して指導を得ることもできます。子ども一人ひとりの個性や配慮すべき事柄に適切な支援が提供できるように努めています。</p>			
2 評価項目2 子どもの生活が安定するよう、子ども一人ひとりの生活のリズムに配慮した支援を行っている		評点(〇〇〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 子どもの出欠席や、家庭や学校での子どもの様子を保護者等から把握・確認し、適切に対応している		○非該当
●あり ○なし	2. 発達の状態に応じて、手洗いやうがい、持ち物の管理、衣服の着脱などの基本的な生活習慣の大切さを伝え、習得できるよう援助している		○非該当
●あり ○なし	3. 学習(宿題)や活動の時間、休息の長さ等は、子どもの状況や保護者の意向に配慮して柔軟に対応している		○非該当
●あり ○なし	4. 学童保育所での子どもの様子と育成支援の内容を保護者に日常的かつ継続的に伝え、家庭と連携して育成支援を行っている		○非該当

評価項目2の講評

登室時に連絡帳の確認と会話を通じて、子ども一人ひとりの様子を把握しています

当学童クラブは歩道からすぐに入口になっており、インターホンでの子どもの確認後にドアを解除し、職員は周囲を確認し子どもたちの安全に配慮して受け入れ、一人ひとりに声をかけながら出迎えています。子どもが自分の荷物を整理してから連絡帳を受付に提出するまでの流れがスムーズできるように、環境を整えて支援を行っています。登室時には、担当職員が子どもと個別に直接会話をしながら、学校の出来事や家庭の様子、健康状態、その日の降室時間と方法などを把握し、子どもがより良い育成時間を過ごせるように配慮しています。

個別の対応や環境に配慮して、子どもに基本的な生活習慣が身に付くよう支援しています

洗面台のところに手洗いやうがいの手順を分かりやすく視覚化し掲示してあります。どの職員でも同様の対応ができるように掲示に沿って実施し、登室時やおやつ前、戸外活動のとき等、生活の流れの中で子どもに衛生習慣が身に付くように個別に援助を行っています。持ち物の管理や着脱、ロッカーの正しい使い方等も、小規模の学童クラブならではの丁寧な関わりを持つことができます。本読みや本のしまい方等、分かりやすくイラストにして掲示したり、集団生活の中でのマナーも無理なく身に付けられるように配慮しています。

当学童では育成支援内容や子どもの姿を工夫して保護者に伝えるように努めています

当学童クラブでは、年間・月間目標を立て、保護者や子どもに伝えながら目標の達成に向けて取り組んでいます。子どもの姿や行事への取り組み等は、会社のホームページのブログ(学童日記)や、毎月発行しているクラブだよりで伝えています。職員は児童記録を作成し、一人ひとりの子どもの育成記録に児童の様子やエピソード等を記載して、保護者会や個人面談を通じて伝えられるように努めています。また、お迎えに来た保護者には子どもの姿をできる限り伝えたり、家庭での様子を聴き、家庭と連携して育成支援ができるように工夫して取り組んでいます。

3 評価項目3

日常の育成支援を通して、子どもの生活や遊びが豊かに展開されるよう工夫している

評点(〇〇〇〇〇)

評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 子どもの自主性、自発性を尊重し、創造的に遊べるよう、時間や空間、遊具、図書等に配慮している	○非該当
●あり ○なし	2. 子ども同士の関係を豊かに作り出せるように援助し、子ども一人ひとりが集団活動等に主体的に関わりながら仲間関係を広げ、多様な遊びを展開できるようにしている	○非該当
●あり ○なし	3. 子どもが安心して過ごせる生活の場としてふさわしい環境(設備・備品、スペース等)を整えている	○非該当
●あり ○なし	4. 戸外活動には、季節の移り変わりなどを感じとることができるような視点を取り入れている	○非該当
●あり ○なし	5. 生活や遊びを通して、子どもがまじりの大切さに気づき、自分の気持ちを調整する力を育てられるよう、配慮している	○非該当

評価項目3の講評

子どもたちの意見を反映し、制作等でも自主的な活動ができる環境に配慮しています

学童クラブの備品や消耗品は子どもたちの状況や意見を参考に購入するようにしています。職員は子どもの状況を見ながら自主的に遊べる環境を設定したり、子どもの意見を反映できるように「ご意見ボックス」を設置しています。本や玩具、数人で遊べるゲーム等のほかに、工作に必要な素材も用意して、工作週間とは別に自由工作の日を設けて日常的に取り組めるようにしています。工作が得意な非正規職員も子どもと一緒に自由工作に取り組み活動しています。一日育成日や雨の日には、子どもたちが関心を持って取り組める活動も準備しています。

子ども一人ひとりが集団活動に主体的に取り組めるように、支援の工夫をしています

当学童は小規模の単独広域学童クラブであり、今年度は2か所の小学校から入所しています。職員は、子どもたちが相手の気持ちを考え、思いやりを大切にすることを目指しています。複数の学校から登室している子どもたちが、互いを知り仲間が広がるように、当番や様々な遊びの機会を設けています。当番活動や行事のときにも、意見を出し合い、お互いの気持ちを知り、思いやりを持ちその中で考え取り組めるように支援しています。日々の活動の中では、学校や学年を問わずにゲームを教えてもらったり、遊びや学童の生活を通して仲間関係が広がっています。

戸外活動や建物のオーナーの了承のもとに、裏の敷地で夏の遊びを楽しんでいます

班活動を通じて子ども同士の関わりや関係が広がるように、定期的に班替えを行っています。1・2年生は3・4年生と組んで日直を担当し、食事やおやつの声かけ、帰りの会の進行等を行っています。戸外活動に関しては、当学童クラブは学校敷地外の単独クラブのため、校庭など自由に遊べる環境が少ないことや、学年により登室時間の違い等もあり、子ども自身の選択や班ごとで戸外活動を行っていますが、困難な面も見られます。今年度、当学童クラブの建物のオーナーの了承を得て、裏庭にブルーシートを敷き水遊びを実施し、夏の遊びを楽しんでいます。

4 評価項目4

日常の活動に変化と潤いを持たせるよう、行事等を実施している

評点(〇〇〇)

評価	標準項目	
◎あり ○なし	1. 行事等の実施にあたり、子どもが興味や関心を持ち、自ら進んで取り組めるよう工夫している	○非該当
◎あり ○なし	2. みんなで協力し、やり遂げることの喜びを味わえるような行事等を実施している	○非該当
◎あり ○なし	3. 子どもが意欲的に行事等に取り組めるよう、行事等の準備・実施にあたり、保護者の理解や協力を得るための工夫をしている	○非該当

評価項目4の講評

子どもたちが興味を持って取り組めるよう、コンテストや工作の週間を企画しています

当学童クラブの年間目標に「相手の気持ちを考え、思いやりを大切にしよう」を掲げて、年間行事を企画しています。その中で、隔月でコンテスト週間や不定期の工作週間などを企画しており、月～金曜日までのコンテスト(傘、空想の生き物など作る)参加期間に、子どもが自由に出品し、次週に他の子が好きな作品に投票して結果発表をしています。また、工作週間はテーマ(廃材でのロケット作り、お菓子の袋でのポーチ作り等)を決め、子どもたちが工作や自由工作等に興味を持ち主体的に取り組む、職員は趣向を凝らした企画を考慮しています。

みんなで協力して行事を実施できたことが、子どもたちの達成感につながっています

当学童クラブの夏祭りは、午前中育成で午後から子どもたちが企画・準備・進行の全てを行い、実施しています。射的やヨーヨー釣りをはじめ、「アスレチック輪投げ」はテープを張り巡らせ、くぐった秒数で輪投げの数を決めています。牛乳パックで作った迷路に割りばしを使って、子どもが作った小さな球をゴールに運んでいく、秒数を競い合うゲーム「すいかのだいぼうけん」等、どのお店もアイデアが満載になっています。子どもたちの発想の豊かさが感じられ、異年齢の交流も深められ、協力してやり遂げた達成感につながっています。

保護者の理解や協力が得られるよう、クラブだより等で行事の実施予定を知らせています

入所説明会や保護者会で学童クラブの月間目標や年間行事を配付して説明するとともに、毎月発行しているこどもクラブだよりで月の予定を知らせています。重要なお知らせはミニレターにして書面で配付もしています。会社のホームページのブログ(学童日記)には、子どもたちの様子を写真とコメントで紹介し、毎月更新して保護者と子どもの共通の話題作りにつなげています。今後、学童クラブの可視化を図るために毎月のクラブだよりに、お知らせとお願いだけでなく子どもたちのクラブでの様子など写真とコメント等を掲載していくことも良いと思われれます。

5 評価項目5

子どもが楽しく安心して食べることができるおやつを提供している

評点(〇〇〇)

評価	標準項目	
◎あり ○なし	1. 放課後の時間帯のおやつ役割を考慮し、子どもが落ち着いた環境でおやつを楽しめるよう、提供時間や方法、内容等を工夫している	○非該当
◎あり ○なし	2. 食に伴う事故(食物アレルギー、窒息、食中毒等)の防止や価値観・文化の違い等に配慮し、食材や提供手順の管理体制を整えている	○非該当
◎あり ○なし	3. 食についての関心を深めるための取り組み(食材の栽培や子どもの調理活動等)を企画している	○非該当

評価項目5の講評

楽しくおやつが食べられるように、定期的な席替えや面白い席決めの取り組みがあります

子どもが楽しくおやつを食べられるように様々な取り組みを行っています。おやつの購入は、「ご意見ボックス」等で聴き、全ての希望は叶えられませんが、子どもの要望を把握して提供しています。班ごとに席が決まっていますが、定期的に席替えをしたり、ときには自由班にもしています。子どもたちが考えた、学童クラブの目指す月間目標を達成できたらシールが1枚もらえるというルールは、半数の子どもが1か月に15枚のシールを貯めたら翌月の月上旬の1週間は自由席になるという、面白い席替えの機会もあり、楽しめる内容になっています。

会社のマニュアルに則り、食材に留意して個別対応が必要な場合の手順を整えています

会社のおやつ提供マニュアルに則り、安全を第一に子どもたちにおやつを提供しています。全児童を対象に、「食材取り扱い確認書」を提出してもらい、個別対応(食物アレルギー等)が必要な場合には確認書の提出と共に入所前に職員が保護者と個別面談を実施し、医師からの指示書または「学校生活管理指導表(食物アレルギー疾患用)」を提出してもらっています。おやつ提供の際には必ず職員間でダブルチェックを実施しています。提供する食材を作る工程等を細かくチェックし、場合によっては家庭からおやつを持参してもらうこともあります。

職員が月に1回手づくりおやつを提供し、子どもが食に関心が持てるように努めています

学童クラブの立地等の関係のため、食育について、野菜の栽培等の取り組みが滞っています。月に1回、手作りおやつの日があり、職員は「学童食物提供企画書」を作成して子どもたちに提供しています。例えば、「たまごせんべい」を作ったときには、ホットプレートで目玉焼きを作り、海老せんべいの上のせて、ソースをかけ食べたり、フルーツタルト風パイでは、冷凍パイシートを使いオーブンで焼き、カスタードクリームとラズベリーで飾り付けました。子どもたちは出来上がるまでの工程や香り、彩り等を間近に見て感じ、食への関心を高めています。

6 評価項目6
子どもが心身の健康を維持できるよう援助している

評点(〇〇〇〇)

評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 子どもが自分の健康や安全、衛生に関心を持ち、病気やけが、事故を未然に防ぎ、危険を回避できるように援助している	○非該当
●あり ○なし	2. 子どものけがや急病に対して、応急処置や緊急連絡の体制、静養スペースを整備し、必要に応じて専門機関等との連携に基づく対応をしている	○非該当
●あり ○なし	3. 保護者と連携をとって、子ども一人ひとりの心身の健康維持に向けた取り組みを行っている	○非該当
●あり ○なし	4. 学童保育所を休みがちな子どもや長期欠席の続く子どもについて、理由を把握し、保護者と共に、子どもが自ら進んで通い続けられるように援助している	○非該当

評価項目6の講評

子どもが健康で安全に過ごせるよう環境に配慮し、関心が持てるように努めています

職員は日常的に、学童クラブの育成室の安全点検を実施し、子どもが安全に活動できるように整備しています。入所時のオリエンテーションを通じて、子どもたちに危険箇所や遊び方、きまり等を伝え、日々の活動の中で自分たちで気付けるようにしています。さらに遊びの場面での関わりでは、子どもの好奇心や意欲も大切にしながら、子どもが自分で考え判断できるように、職員が発達段階に合わせた声かけを行っていくことが期待されます。手洗い・うがいのに関しては、子どもたちが関心を持てできるように、イラスト入りの掲示をするなど工夫しています。

緊急時の適切な対応が徹底できるように、CPR訓練の年間計画の作成が期待されます

緊急時対応マニュアルに基づき、子どものけがや急病のときに応急処置や連絡の体制、安静になる場所を整備しています。月1回のCPR(救命・心肺蘇生法)訓練は、施設長の指示のもとに実施しています。1月には「ロッカーの上に登った児童が足を滑らせて転倒。意識不明」を想定し行いました。緊急体制連絡の方法は職員だけが分かる場所に掲示して体制を整えています。訓練は実施しているものの、年間計画は作成しておらず、訓練時に不在の職員や子どもに対しても徹底する方法を含め、CPR訓練の年間計画を作成して実施していくことが期待されます。

健康維持に向けた取り組みや子どもが学童クラブに継続して通えるように配慮しています

入所時に、子どもの健康面に関する注意事項として「緊急時連絡票」を提出してもらい、一人ひとりの子どもの健康状況を把握しています。保護者との連絡は「連絡帳」を用いて健康状態を確認するとともに、体調不良時には「緊急時連絡票」を基に電話連絡をして保護者に状況を伝え、必要な対応を依頼しています。学童クラブを長期欠席したり、休みがちな子どもに対しては、保護者と連絡を取り合っており、子ども本人や保護者から理由や事情を丁寧に聴き、学童クラブに継続して通うことができるように配慮しています。

7 評価項目7
保護者が安心して子育てをすることができるよう支援を行っている

評点(〇〇〇〇〇)

評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 子育てや就労等の保護者の個々の事情に配慮し、子育てと仕事を両立できるよう配慮して支援を行っている	○非該当
●あり ○なし	2. 保護者同士が交流したり、子育てについて協力し合うことができるよう、活動機会や情報の提供を行っている	○非該当
●あり ○なし	3. 保護者が話しやすく、相談しやすい関係を築き、学童保育所への理解や信頼を深めることに取り組んでいる	○非該当
●あり ○なし	4. 子どもの発達や子育てなどについて、保護者と共通認識を得られるよう、保護者会や、保護者が参加できる行事・活動を工夫して企画し、無理のない参加を案内している	○非該当
●あり ○なし	5. 子どもの生活の連続性を保障し、安全を確保するために、学校との情報交換や情報共有を日常的に図り、連携している	○非該当

評価項目7の講評

職員は、保護者の子育てや就労等、個々の事情に配慮した支援を提供しています

入所時の説明会では、開室時間や延長育成利用、欠席・降室・時間変更の連絡等について、入所のしおりに沿って保護者に伝えていきます。連絡帳を使用して降室時間と方法を記入し、連絡を取り合っています。保護者の記入忘れのときには、子どもへの確認や保護者に確認の電話を入れたり、確実に対応するようにしています。今回の利用者調査(保護者アンケート)では、急な変更依頼への職員の対応に100%の満足度が得られており、配慮されている様子が窺えます。今年度より、市の配信サービスを活用しての変更ができるシステムを検討しています。

保護者が相談しやすい関係を築けるように、保護者会や個人面談を実施しています

コロナ禍の中で、第1回目の保護者会はミニレター(重要なお知らせ)を配付してWebでの開催となり、「夏休みのしおり」に沿って説明を行っています。個人面談は2回設けていますが、2回目は希望者が実施しています。学童クラブにおける子どもの生活の様子を伝え、保護者と情報を共有し、学校や家庭での様子を聴き、生活の連続性にも配慮して、今後の育成につなげるように努めています。また、子どものお迎え時にも、学童クラブでの子どもの生活や活動の様子、友だち関係等について小まめに伝えるようにしています。

担任教諭と情報を共有し、学校とのつながりを意識した支援を行うことが期待されます

入所時には必要に応じて保育園からの情報を得て職員間で共有し、継続した支援に活かしています。当学童クラブは広域学童であり、今年度は2校の小学校から受け入れています。小学校の担任教諭や副校長とは、必要であれば連絡を取り合っています。今回の利用者調査(保護者アンケート)では、「小学校の対応に困ったことがあった。校内にある学童でないためか、理解されていないように感じる」とのコメントも寄せられていました。今後さらに、小学校との良好な関係を築き、担任教諭等と子どもの情報を共有していくことが期待されます。

8 評価項目8

地域との連携のもとに子どもの生活の幅を広げるための取り組みを行っている

評点(〇〇)

評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 地域資源の情報を収集・活用し、子どもが多様な体験や交流ができるような機会を作っている	○非該当
●あり ○なし	2. 学童保育所の行事に地域住民の参加を呼び掛けたり、地域の行事と一緒に参加する等、子どもが地域の人々と交流できる機会を確保している	○非該当

評価項目8の講評

コロナ禍の中、工夫した保育園との交流や近隣のお店との継続した連携に努めています

コロナ禍の中でも、保育園の子どもたちと学童クラブの子どもたちが交流できる機会を工夫して設けています。系列保育園6園とのオンライン(Web会議システム)による交流は、学童クラブの子どもたちが学童の生活やイベントの取り組み等を伝えたり、質問コーナーやお絵かきクイズ等の楽しい企画を考えるなどして実施しています。近隣の図書館からは、団体図書で多数の本を借りるなど、地域資源を有効に活用しています。学校敷地外の学童クラブのため、戸外活動は近隣の公園に行き、運動遊びに取り組んでいます。

年度初めに子どもと一緒に近隣の商店に挨拶に回り、地域との関係を築き始めています

年度初めに、子どもたちと一緒に近隣の自転車屋、豆腐屋、利用しているケーキ屋等に挨拶に行っています。当学童クラブはマンションの1階の一室のため、地域との関係を築くことが難しいこともありますが、子どもたちを地域のみんなで見守り、育んでいく地域への働きかけがさらに必要と思われます。例えば、子どもが挨拶回りをした商店の豆腐屋やケーキ屋には、原材料や作り方等、食育につながる取り組みを教えてもらい、自転車屋には自転車が走る仕組みの専門的な知識を指導してもらうなど、現状の中でできることから始めることが期待されます。

事業者が特に力を入れている取り組み①		
評価項目	6-4-1	子どもの健全育成のための支援を行っている
タイトル①	相手の気持ちを考えるよう、「ちくちくことば」、「ふわふわことば」を掲示しています	
内容①	目標に「相手の気持ちを考え、思いやりを大切に」を掲げて、子どもが自分の気持ちや意見を伝え、互いに認め合い・尊重できるように支援しています。子どもの中で乱暴な言葉を聞く場面が見られたため、「ちくちくことば」と「ふわふわことば」を壁に掲示しています。「ちくちくことば」は自分が言われたら嫌だと感じる言葉（死ね、あほ、あっちに行け等）、「ふわふわことば」（ありがとう、ごめんね等）は、気持ちを込めて優しく言うこと（いいよ、一緒にあそぼう、どうしたの等）を具体的に示したことで、子どもたち同士で改善につなげています。	

事業者が特に力を入れている取り組み②		
評価項目	6-4-3	日常の育成支援を通して、子どもの生活や遊びが豊かに展開されるよう工夫している
タイトル②	隔月で多様なコンテストやイベント等を企画し、遊びを豊かに展開しています	
内容②	クラブ目標の基に月間目標を立て、イベントやコンテストや工作の週間等を企画しています。工作週間では、紙粘土でミラーフレーム作り、自由工作等の制作、また「あっち向いてほい大会」等の開催にも取り組んでいます。コンテスト週間では、塗り絵や傘、空想の生き物など、子どもが積極的に楽しんで参加しています。一週間のコンテスト参加期間があり、次週に3日間で子どもたちが作品の投票をして、週末の金曜日にコンテストの結果発表をしています。利用者調査(アンケート)の中でも、保護者から多様な取り組みへの好評の声が寄せられています。	

事業者が特に力を入れている取り組み③		
評価項目	6-4-4	日常の活動に変化と潤いを持たせるよう、行事等を実施している
タイトル③	毎年度、子ども一人ひとりの1年間の作品をまとめ、思い出の足跡を作っています	
内容③	日々の育成では、職員は見守りだけでなく、子どもと向き合い、共に活動に取り組んで遊んでいます。毎年度、1年間の様々なイベントやコンテスト、川柳作り、宮沢賢治の読書週間等を工夫して実施しています。子どもが楽しんで参加でき、意欲的に取り組み、子どもたち同士の絆を築き上げています。席替えや月間目標が達成できたときにももらえるシールの数は子どものおやつの特権につながる等、どれもが子どもたち一年間の成長と思い出の足跡です。職員は年度ごとに形態を変え、子ども一人ひとりを振り返りながら行い、今年度は巻物式にしています。	

No. 特に良いと思う点		
1	タイトル	当学童クラブは、小規模施設の特徴を活かしてきめ細やかな育成に力を入れて取り組んでおり、保護者から非常に高い評価が得られています
	内容	当学童クラブは、小規模な施設の中で2校の小学校から通っている広域学童クラブであり、現在は1～4年生の子どもたちが在籍しています。充実したイベントやコンテスト等が特色になっています。職員は、子どもたちが遊ぶ際には見守るだけでなく、向き合って一緒に遊ぶことを心がけ、子どもの様子を細やかに見て、トラブルの際も子どもたちの気持ちを受け止めるよう努めています。子どもにとっていつまでも思い出に残る学童クラブを目指した育成の取り組みにより、利用者調査では、回答した保護者全員が総合的に満足という非常に高い評価を得ています。
2	タイトル	日々の育成やイベント、コンテストを通じて子どもの自主性・主体性を育み、アイデア満載の取り組みの中で子ども同士の絆を深めています
	内容	クラブ目標や月間目標のねらいのもと、多様なスポーツデー、工作や読書の週間、イベント、コンテスト等に取り組んでいます。どの取り組みも目標の達成を図り、子ども一人ひとりが自主性と主体性を持ち、みんなで協力して進めていくことで、子どもたち一人ひとりの力が確実に育まれています。コンテストでは自発的に出品したり、夏祭りでは子どもたちが協力して、アイデア満載のゲームの出店のほか、テープを張り巡らせくぐった秒数が輪投げの数につながる等、実施方法に創意工夫を凝らしており、子どもたちが生き生きと取り組み、絆を深めています。
3	タイトル	全職員がやりがいを持ち、楽しく働ける職場を目指し、イベントの分担をチームとして取り組めるようにしてモチベーションを高めています
	内容	目指している「職員がやりがいをもって楽しく働ける環境づくり」に向けて、当学童クラブが力を入れているイベントの分担をチームで取り組めるように1名から2名に変更して、年間イベント担当表を作成しています。子どもたちが正規・非正規に関わらず全職員に同様な気持ちで関わられるようにという意図もありました。職員の自己評価では、「役割分担があり責任感とやりがいを感じている」や「年間を通して分担されており気持ちに余裕が持てるようになった」等の声が寄せられています。職員がやりがいを持ち、楽しく働ける職場作りに取り組んでいます。
No. さらなる改善が望まれる点		
1	タイトル	中・長期計画や単年度計画を策定し、当学童クラブの事業全体の目標や課題を明確にして、着実に取り組みを進めることが望まれます
	内容	職員や保護者からは面談や保護者会、日々の会話から課題を抽出し、子どもからの要望は「ご意見ボックス」を設置して、運営の改善に向けて取り組んでいます。また、クラブ目標である「相手の気持ちを考え、思いやりを大切にしよう」を基に、毎月の月間目標を作成しています。しかし、当学童クラブ事業全体の課題や取り組みの内容は明確にされていません。今後は、課題や取り組みを見極め、中・長期計画、単年度計画を策定して、学童クラブの進むべき方向や目指す目標を定め、具現化するために職員と共に考え、取り組みを進めることが望まれます。
2	タイトル	子どもへの豊かな育成支援を継続するために、児童記録の充実や月間目標のねらいの振り返りを行い、次へと継承していくことが期待されます
	内容	子ども一人ひとりの育成の状況は、「児童記録」に記録しています。記録の書式は年度ごとに変わるため、継続した支援につなげていくためには、個々の子どもの育成記録を継承して行けるような記録の取り方が期待されます。クラブ目標や月間目標、行事は保護者に配付し、子どもたちには掲示で知らせています。今後は、月間目標を達成するためのねらいを定め、具体的な働きかけや内容を明示して、目標に対する子どもの姿や振り返りを個々の児童記録に活かし、子どもの発達の推移を明確にして、より質の高い育成支援につなげることを期待されます。
3	タイトル	広域こどもクラブとして、現在の地域との関係を無理なく深め、地域で子どもを見守るネットワークをさらに拡大していくことが期待されます
	内容	今年度は2校の小学校から子どもが登室しており、職員は年度初めに小学校に挨拶に行っています。近隣の自転車屋や豆腐屋、常に利用しているケーキ屋等には、子どもと共に年度初めに挨拶に行っています。また、系列保育園6園とオンラインで交流する機会を設けています。今後は、小学校教諭と子どもの情報を共有し、育成に活かしていくことや、地域の中で子どもたちを見守り育てていくことなど、様々な人との関わり、体験を通じて心豊かな子どもを育てるために、今つながっている関係をより強化し、さらに幅広いネットワークを作ることが期待されます。